

人生を拓く

38

加藤安夫さん(91) 11月14日

愛知県旧春日井郡(現在の名古屋市の一部、瀬戸市、春日井市などを含む一帯)出身の父・初次郎さん(昭和37年、79歳で逝去)、母・しおさん(同25年、63歳で逝去)は、明治20年代後期から30年代ごろ、旧神楽村の天皇領東御料地、忠別農区(現東神楽町忠栄地区)の貸し下げで入植しました。

1912(大正15)年、14人兄妹の12番目の子として誕生しました。神楽村東神楽第三尋常小学校卒業後、忠別川を渡って東川尋常小学校高等科に2年間通い、15歳から3年間、神楽村青年学校に。翌1944(昭和19)年、19歳で出征し終戦の年5月、大湊海兵団(青森)に配属になり、間もなく終戦を迎え帰郷。25歳で東旭川町(現旭川市)に住んでいた22歳の活子さんと見合い結婚しました。

結婚を機に、父・初次郎さんは東川に2町5反(2・5畝)の農地を購入。その地に分家しました。農地解放の後に水田を買い増して2倍の経営規模に。44歳まで農業一筋でした。



一人息子の長男の大学進学を機に、活子さんに農作業を任せ、「ボイラーの免許持ってたからね」と勤めに。初めは旭川市教育委員会勤務で教育長が乗る公用車の運転手だったそうです。

「田んぼは一番石がないところで、地域ですとトップだったよね。でもね、外に働きに出たから、5町歩の水田は女房一人ですべてくれたの」。その活子さんは5年前に腰を痛めて手術し、やっと体調も回復して少しの家庭菜園で仕事もできるように。「手芸が趣味だね。料理も上手だよ」。

72歳までボイラー技士として現役で働き、引退後は東川シニア連合会の世話係として副会長に。「若い時、俺たちの時代はス

ポーツあまりやらなかったの。だから今は若い時出来なかったことをやっているの」とフォークダンス、卓球、カラオケを楽しんでいます。世話役になって7年目。70歳になつてから始めた卓球は「90歳以上の人とやっておそらく負けんよ」。

俳句

南国のパイنجューズの味今も
葉っぱごとモデルにされてかたつむり
日勝の半身の馬や初夏に啼く
菜園やかくれんぼ上手のかたつむり
艶やかに王妃となりし茄子の花
蝸牛ゆっくりゆっくり竿の上
ハンモック十五のわたし揺れている
きれいですね庭のたんばば褒められる
こんな日はテラスで君と水ようかん
差し入れはあん密ひと匙ぶん笑顔
祖母の家石炭小屋にびんサイダー
かたつむり我道をゆく求道者
銀の筋シルクロードかかたつむり
ソーダー水ストロー回し間を遊ぶ
かたつむり湿る足跡残しけり
星消えて明日生まれる蝸牛

杉山 ひろのり
保科 なほ
徳光 吐苦
杉山 りつ
こばやし 星来
横田 則子
高瀬 潤
石澤 清宏
三島 智
若田 郁
本田 咲
佐々木 りえ
斎藤 夕桜
山内 みゆ
由川 真人
小林 ろば

